

シリーズ ■ 中学校武道

授業の充実に向けて

114

つまずきをどう克服したか⑦ (弓道—手探りの中での授業)

東京都文京区立第三中学校教諭 槻田ちひろ

今回の「中学校武道授業の充実に向けて」では、文京区立第三中学校での弓道授業を執筆させていただきました。

武道が必修化になり、いろいろな課題やつまずきが生じています。

その中で、文京区立第三中学校では、文京区立中学で初めて弓道授業を導入しました。弓道を取り入れた経緯や、生徒が興味を持ち意欲的に取り組めるような授業展開、「自らの課題発見」や、「安全な環境づくり」について紹介いたします。

1 弓道授業の導入

保健体育の授業では、技術や技能の向上を目指したり、記録に挑戦することで、子どもたちの達成感を生み出すことが出来ます。しかし、運動に苦手意識を持つている子どもも少なくはなく、「挑戦してみよう」という気持ちにさせるには時間がかかります。近年、頭と体を連動させるのが苦手な子どもが増えており、本校では特に

操作性に低下傾向が見られます。いかに子どもの関心を引きつけられる教材を採用し、主体的に活動できる授業展開を行うのが例年課題に挙がります。

そんな時、公益財団法人全日本弓道連盟と、公益財団法人日本武道館で作成された「弓道」のリーフレットを本校校長よりいただき、拝見しました。私自身も大学の授業で行ったことがあるのみで、本来の弓道の持つ精神や、由来等を深くは知りませんでした。しかし、より多くの種目を子どもたちにも経験させたいと思い、手

探りですが、全日本弓道連盟と東京都弓道連盟の協力を得て、授業に導入することを決めました。

(5) 試合における審判は、審判規則を理解し、適切な判定ができるようにする。

(6) 学習することにより、個々の長所が伸張できるようにする。

(7) 日常生活における礼儀作法や相手の立場を尊重し、集団での協力ができる態度を養成する。

(8) 自己の意志力、忍耐力、集中力を養うとともに人格の形成につとめる。

(9) 弓道に関する環境整備への関心を高め、その運営ができることにより、社会生活への奉仕の態度を養成する。

(10) 生涯を通して、継続的に、自己の体力にあわせて弓道ができる能力と態度を養い、健康維持、増進につとめる。

(11) 弓道が「矢を射る」という特異な技能の構造であることから、安全に対する態度を養成する。

〔弓道指導の手引〕日本武道館・全日本弓道連盟、平成4年7月

また、『弓道授業指導の手引き』（全日本弓道連盟、平成23年11月）によると学年ごとの観点別目標は

以下のとおりです。

観点別目標

〈技能〉
1年…楽しく安全な学習と弓道の基本動作を身につけることができるようにする。

2年…弓道の学習を通して、集中力を身につけ、筋力・筋持久力・調整力等の体力向上を図ることができるようにする。

3年…弓道の基本動作を正しく理解し、実践できるようにする。

〈態度〉
1年…弓道の学習の仕方と健康安全に気を配り、協力し合い思いやりの心を育てることができるようになる。

2年…仲間と教え合い、協力して技術の向上に取り組むことができるようにする。

3年…礼儀作法を身につけ、生活の中に活かすことができるようになる。

〈知識、思考・判断〉

1年…弓道の歴史や特性を知り、射法八節を正しく行えるようになる。

2年…互いに課題を見つけ、解決の方法を学ぶことができるようにする。

3年…ルールを理解し、練習や競技会を進めることができるようになる。

本来であれば、中学校の3年計画を経て身につけさせることが大切ですが、しかし、本校では、昨年度初めての実施により第3学年のみで実施しました。

3 弓道授業実施に向けて

授業にあたっては、講師の先生方をお招きする前に、弓道に関する事前学習を行いました。生徒の弓道に対する認知度・意欲を測るために行った事前のアンケートでは、「弓道について知っていますか」との問いかけに対して、「矢を的に当てる競技」「武道の一つであることは知っているが、見たこともやったこともない」という生徒が大多数を占めていました。

2

武道「弓道」の位置づけ

『弓道指導の手引』では、弓道指導の目標が以下のように記されています。

弓道指導の目標（抜粋）

(1) わが国固有の文化としての伝統的な武道であり、的に対して矢をあてるという他の武道の種目と異なる特性があることを理解する。

(2) 定められた作法により、立ち方、坐り方、歩き方、回り方などの基本の動作ができ、射法八節を中心とした技能を身につけるようにする。

(3) 弓道に適した段階練習を行い、射法八節の技能を高めるようにする。

(4) 基本の動作や射法の技能を生かして、公正に正規の試合や運営ができる態度を養う。